

大学基準 1. 理念・目的

<p>中期目標</p> <p>【目標 1】 大学・学部・研究科等の理念・目的を、定期的に検証し適切に維持する。</p> <p>【目標 2】 大学・学部・研究科の理念・目的を、大学構成員(教職員および学生)に周知し、社会に公表する。また、認知度を向上させる。</p>
--

(1) 大学評価委員会

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)			達成度評価指標【指標 1】
[1-1] 大学の理念・目的に定める人材育成が、時代に適合し社会から高い評価を受けることができる内容であることを、指標に基づいて客観的に評価し、検証する。			①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) ③学内の諸活動参加状況(協働)
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 本学の理念・目的を具現化する活動を集約し、理念・目的を実現するための実態を把握する。	理事会主導で実施された「ブランディング事業」は、全教職員が参加したワークショップなどを通じ、大学の理念や目的に沿って本学の特徴を可視化し共有する機会となった。 また、学長から、「社会貢献の目標」を具現化するための方針や計画が提起された。	指標の年度推移は次の通り。(2015年度以降) ① (就職者のうち、道内企業の割合) 73.0%、71.1%、69.9%、68.0%、67.0% ②32件、28件、31件、26件、27件 ③9件、14件、16件、10件、15件 ①については微減傾向が継続。
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] 本学の理念・目的を具現化するため、社会連携センターを設置し、社会貢献活動を支援する。また、大学としてのディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを新たに策定する。		

中期計画【計画 2】(目標 2 に対応する計画)			達成度評価指標【指標 2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。			①理念・目的の認知度調査結果
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 認知度調査について、前年度同様の形式で学生の調査を実施する。さらに、教職員の認知度調査について検討する。	3年目となる認知度調査をこれまで同様の形式で実施した。全学的には順調に認知度が上昇している結果となっている。(第3回委員会報告1) なお、計画に挙げていた教職員の認知度調査は検討ができなかった。	3年連続で認知度が上昇し、知っている割合が初めて4割を超えた。(1.2年生合計の知っている割合：41.9%)
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1] 2020年度から見直した学部・研究科の3ポリシーが適切に公表されているかを点検する。また、昨年度同様の形式で、認知度に関するアンケート調査を実施する。		

(2) 経営学部

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)			達成度評価指標【指標 1】
[1-1] 現行の経営学部の目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。			①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) ③学内の諸活動参加状況(協働)
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 2021年度の再編に向けて、国際化のカリキュラムを策定する。同じく再編に向けて、地元での産学連携を進めるカリキュラムを策定する。	2021年度の新学科に、グローバルコースを設定し科目を策定した。また、産学官の連携に関わる教員の配置を準備した。	長期国際インターンシップは7名の参加で順調にスタートし、学生の満足度は極めて高い。エアライン系を目指す学生向け科目も次年度に向けて準備した。産学官連携に関わる教員の採用もできた。
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] 2021年度の再編に向けたカリキュラムは作成し教員も採用で来たので、必要とあれば本年度中により良いものに修正していきたい。		

中期計画【計画 2】(目標 2 に対応する計画)			達成度評価指標【指標 2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、経営学部では1年次から4年次まで少人数のゼミを開講しているので、その機会を利用するなど新たな周知方法を検討する。			①理念・目的の認知度調査結果
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 本学のブランディング戦略を各教員が十分理解し、その上で大学の広報に資する活動を推進したい。	全学のブランディング取り組みに積極的に参加し、教員のブランディング意識を高めた。	新学部内での新経営学科の価値について、共通理解が進んだ。
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1] 2021年度からの経済経営学部経営学科として、新しい学科の新しい3つのコースの特徴を広く知らしめたい。		

(3) 経済学部

【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】
[1-1] 現行の経済学部理念・目的と教育・研究活動の成果との関連性について検証し、評価する。		①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生)

1. 理念・目的

			(他校とのセミナー開催・参加あるいはインターンシップ活動への参加について統計データを用いる) ③学内の諸活動参加状況(協働) (入学式や卒業式やその他の行事での学生からの援助などの統計を用いる)
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 「自律」、「人権」、「共生」、「協働」という理念を体現する取り組みを積極的にリサーチし、本学の人材育成の目的が適切に機能していることを引き続き検証する。	「自律」に関しては、進路決定状況を毎月報告し、確認した。「人権」、「共生」については、他大学とのセミナー参加・報告、インターンシップへの参加を促す。「協働」については、プロゼミナールにおいてSAを活用するなどをした。これらの方法を議論したものの、本学の人材育成の目的が適切に機能していることは完全には検証できていない。	現行の経済学部理念・目的に従い、教育・研究活動を行ってきたが、今後も関連性については具体的に検証していく。
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] 新学部及び新学科の「目的」「教育目標」を踏まえ、継承・発展の課題を深める。		

【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 大学の刊行物、経済学部のホームページ、ガイダンス、保護者懇談会、高校訪問などの機会を通じて、多様な方法で理念や目的を周知し、その認知度を高める。さらに、各方法の効果を検証し、必要があれば新たな周知方法も検討する。			①ホームページへのアクセス数 ②大学の広報室の活動から得られる情報 ③高校訪問、保護者懇談会などの生の情報
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 大学・学部の理念・目的について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、父母懇談会の冒頭にて説明を行い、周知を図る。さらに、教職員の認知度を維持させる。	学部ガイダンスやオープンキャンパス、保護者懇談会にて説明し、周知を図った。	昨年度と同様に、認知度を高めるよう継続して努めた。新たな周知方法は現段階では必要ないと判断している。
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1] 新学部及び新学科の「目的」「教育目標」について、学部学科ガイダンスやオープンキャンパス、父母懇談会の冒頭にて説明を行い、周知を図る。さらに、教職員の認知度を維持させる。		

(4) 人文学部共通

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 大学の理念・目的および人文学部の目的と、各学科における教育・研究活動の成果との関連性について評価する。			進路決定状況
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 大学・学部の理念・目的が各学科のカリキュラムや科目編成において、どのように具体化されているか、またそれにふさわしい進路状況になっているかを検証する。	人文学部人間科学科と英語英米文学科を1学科4専攻に再編統合する議論の過程で、人間科学科を5領域から3専攻制へとリニューアルした。総合性に加えて専門性を明確にすることができた。	学生の進路決定状況に関しては、学部教授会と各学科の学科会議において報告されているが、学部単位の進路決定状況は取りまとめているのが現状である。学部単位の進路決定状況を可視化する必要がある。
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] 大学・学部の理念・目的が各学科のカリキュラムや科目編成において、どのように具体化されているか、またそれにふさわしい進路状況になっているかを引き続き検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 人文学部教員ならびに関係職員が、大学・学部の理念・目的を理解し、その教育・研究活動との関連性について検証する。 [2-2] 学生や社会に対し、刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。			[2-1,2-2 共通] 理念・目的の認知度調査結果
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 大学・学部の理念・目的を念頭においた教育・研究活動を一層、活発にするよう引き続き努力する。	今年度も、学部専任教員の教育・研究状況(学会出張、講演会招聘、研究出版、学外委員の委嘱等)を教授会において資料提供した。人文学部会紀要は予定通り、年2回、発行した。退職教員の最終講話は学科単位で行なった。	人文研究部会では、新任教員の研究発表(紹介)や退職教員の最終講話に限定せず、より多くの研究発表ができるよう工夫する。【指標なし】
	[2-2] さまざまな大学・学部行事において、大学・学部の理念・目的の周知徹底をはかるとともに、社会に対して情報配信する努力を継続する。	昨年同様、履修要項での記載や人文学部交流会(旧体育大会)等の学部行事において、学部の理念や目的について周知徹底するよう努めている。学部のホームページ等で社会に対して発信している。	学部の理念や目的の周知徹底に努めているが、どの程度、学生や社会が認知しているかについて、今のところ、それを正確に把握する手段を欠いているように思われる。引き続き、この点について検討を進める。【指標なし】
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1] 大学・学部の理念・目的を念頭においた教育・研究活動を一層、活発にするよう引き続き努力する。 [2-2] さまざまな大学・学部行事において、大学・学部の理念・目的の周知徹底をはかるとともに、社会に対して情報配信する努力を継続する。		

(5) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 毎年履修要項の改正時期にあわせて、学科の理念・目的及び「人間科学科教育のめざすもの」を学科会議等において確認・検証する。			履修要項
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 新年度の履修要項を作成するにあたり、その内容を学科会議などで検討・確認する体制を継続する。	[1-1] 新年度の履修要項の作成にあたっては、そのつど学科会議・教務委員会で検討・確認した。とくに2020年度は新カリキュラムのスタートの年度でありまた全学的に履修要項は入学時にのみ配布されることになったため、4年後を想定して内容を検討した。	検討の結果、適切に維持できていると判断できる。従って、来年度以降もこの体制を継続しつつ、新カリの進行に伴う問題点の洗い出しと反映に努める。 【指標：履修要項 ※現物提出】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 新年度の履修要項を作成するにあたり、その内容を学科会議などで検討・確認する体制を継続する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。			<ul style="list-style-type: none"> 種々の刊行物 ホームページのコンテンツおよびアクセス状況データ
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 公式ホームページの学部学科サイトへのお知らせ情報のアップデートをとおして、学科の理念・目的を周知させる。学科会議で実施状況を適宜確認する。	[2-1] 公式ホームページの学部学科サイトお知らせ情報を年度内に23回更新した。学科会議や領域内の打ち合わせで実施状況を確認した。	<ul style="list-style-type: none"> 2020年からの新カリキュラム開始にあわせて学科の理念・目的を、入試広報の学科チラシや学科サイトをとおして適切に学内外に周知した。 【指標①学科チラシ、②学科サイト】
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 公式ホームページの学部学科サイトへのお知らせ情報の迅速かつ頻回のアップデートをとおして、学科の理念・目的を周知させる。学科会議で実施状況を適宜確認する。		

(6) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。			<ul style="list-style-type: none"> ①「実用英語」科目の履修状況 ②「専門分野」科目の履修状況 ③進路決定状況
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 今年度は「英語運用能力の養成」の教育活動の成果を、実用英語のクラスのみでなく、英語の専門分野を扱う科目との関連でも検証する。また、学科の理念をより高度に実現させるべく、半期海外留学により多くの学生の参加を促す手立てを検討する。	<p>今年度は、英語を使った交流行事の1つであるExchange Day(専門科目で実施)のより効果的な運営を議論し、潜在的に抱える問題点や、参加学生が留意すべき点が整理した。また、昨年度同様、各教員の教育実践の共有を通し、授業改革への示唆を得るよう努めた。さらに、実用英語の専門科目における履修者の成果を具体的に把握することも継続して行った。</p> <p>半期海外留学へより多くの学生の参加を促すべく、昨年度改正した半期留学奨学金制度の選定基準をガイダンス参加者へ公表した。ただし今年度は、こうした取り組みが留学申込者の増加にはつながらなかった。また、半期留学参加者のいわゆる「学費二重払い」問題の是正に向けて、戦略的事業予算で半期留学参加者の後期学費減免を要求した。結果はゼロ査定であったが、この問題の議論は理事会で継続の見込みである。</p>	<p>今年度も「英語運用能力の養成」に関して、複数の科目について検証を行い、個々の教員による教育活動と学科の教育目標に齟齬がないことを確認した。また、教育効果を更に良くすることを狙い、具体的な教育活動について情報共有に努めた。</p> <p>【指標「10分FD資料」2019年度4月・5月・6月学科会議】 【指標「10分FD報告書」2019年度4月・5月・6月分】 【指標 2019年度第5回学科会議資料1,2,4】 【指標 2019年度第9回学科会議資料5,6】 半期海外留学により多くの参加を促すべく、より明確な奨学金選定基準を学生に公表した。また、半期留学参加者の経済的負担を軽減するよう、学費減免の予算要求を行った。 【指標 2019年度第7回学科会議資料9-4,9-5,13-7】</p>
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 今年度も、「英語運用能力の養成」の教育活動の成果を、実用英語のクラスのみでなく、英語の専門分野を扱う科目との関連でも検証する。また、学科の理念をより高度に実現させるべく、半期海外留学により多くの学生の参加を促す手立ての検討も継続する。さらに、今年度前期の遠隔授業において学科の理念と目的と齟齬をきたしていないかなどに関しては、遠隔授業が軌道に乗ってから検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。			理念・目的の認知度調査結果
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 昨年度に引き続き、学科の目的について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、保護者懇談会等の冒頭にて説明を行い、周知を図る。また、理念・目的の認知度調査も昨年度と同様の方	昨年度に引き続き、学科の目的、教育目標、各専門分野の教育・研究活動の関連性について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、履修要項、保護者懇談会用刊行物、ホームページ等で公開した。また、学科の	<p>昨年度から継続して、教育目標の公開を行った。また検討を続けてきた学科独自で行う学科の目的の認知度調査を実行した。</p> 【指標 「HP」「履修要項」】

1. 理念・目的

	法で継続する。	目的の認知度調査のアンケートを行い、学科の目的の共有状況を確認した。	【指標 2019年度第2回学科会議資料8】
2020年度	年次計画内容 [2-1] 今年度も、学科の目的について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、保護者懇談会等の冒頭にて説明を行い、周知を図る。また、理念・目的の認知度調査も昨年度と同様の方法で継続する。今年度からは修学ポートフォリオも活用する。		

(7) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 現行のこども発達学科の目的を、これまでの教育活動の成果との関連性について定期的に検証し、必要に応じて対策を講じ、両者の整合性を図る。	①教育機関・保育施設等の教育・子育て支援に関わる進路の決定状況 ②教員免許・保育士資格の取得状況 ③教員養成の理念 ④教職課程履修カルテ	
2019年度	年次計画内容 [1-1] ① 小学校教職課程や保育士養成カリキュラムが、現状の社会に応じた教育理念と目的にかなっているかを再確認し、可能な範囲で修正の方向性を示す。 ② これまで行ってきた卒業生の進路の動向、現在の在学生数、入学者数の経年変化を今後も継続的に注視し、教育目標にあっているかを確認し続ける。 ③ 保育士養成カリキュラムによって育成してきた学生の将来の志望を把握し、教育目標と整合するように努める。そのために「保育実習ハンドブック」の活用を行う。 ④ 「教職課程履修カルテ」の活用を全学生が十分に行えるように指導し、教育活動の充実を図る。	計画実施状況 FD 研修会を契機に三つのポリシーの見直しを行い、2019年度から施行された教職コアカリキュラム及び保育士養成カリキュラム改訂、さらには北海道及び札幌市の教員養成指標にも対応するよう、教育理念と目的、カリキュラムの総合的な見直しを行った。教職や保育士の実践力強化の点では、進路に至るまでの成果が着実に現れていることから今後もこの方向性を維持したい。また、教職や保育士以外の子どもにかかわる専門職への教育機能の充実を目指し、2020年度から社会教育主事(社会教育士)課程を専門科目に取り入れることとした。 「保育実習ハンドブック」、「教職課程履修カルテ」の活用、充実を引き続き行った。	指標に基づく中期目標の達成状況 調査を5/5実施。整理と対策を4/4実施。検証と維持を2/2実施。 【指標「目標達成のための計画表」D1-1】 【指標「履修要項 01-1.こども発達学科教育のめざすもの」】※現物 【指標「進路希望調査」】 【指標「教員免許取得状況」】 【指標「教員採用の実績表」】 【指標「教職課程履修カルテ」】※現物 【指標「教育実習日誌」】※現物 【指標「こども発達学科の目的・目標・方針(HPより)」】 【指標「カリキュラムマップ」】 【指標「就職状況」】 【指標「保育実習ハンドブック」】※現物
2020年度	年次計画内容 [1-1] ① 小学校教職課程や保育士養成カリキュラムが、現状の社会に応じた教育理念と目的にかなっているかを再確認し、可能な範囲で修正の方向性を示す。 ② これまで行ってきた卒業生の進路の動向、現在の在学生数、入学者数の経年変化を今後も継続的に注視し、教育目標にあっているかを確認し続ける。 ③ 保育士養成カリキュラムによって育成してきた学生の将来の志望を把握し、教育目標と整合するように努める。そのために「保育実習ハンドブック」の活用を行う。 ④ 「教職課程履修カルテ」の活用を全学生が十分に行えるように指導し、教育活動の充実を図る。 ⑤ 新生及び在学生ともに社会教育主事課程の履修を推進し、学科の専門性を活かした進路意識の涵養に努める中で、教育目標の実現可能性を広げる。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] こども発達学科の理念・目的の周知効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。	①進路別、学年別の履修状況 ②ホームページ更新数、閲覧数	
2019年度	年次計画内容 [2-1] ① こども発達学科の理念・目的を大学構成員が認知し、社会に向けてしっかり認知できるように構成員全員が心掛けて発信する。 ② 刷新された大学や学科ホームページを点検し、運用方法のさらなる改善を図り、大学構成員と関係者ができるだけ多くの情報発信ができるように工夫する。 ③ オープンキャンパス、保護者懇談会などでの説明会において認知度を高めるよう工夫する。	計画実施状況 学科会議や基礎ゼミなどを通して教職員・学生が学科の理念や目的を共有し、進路指導や就職に役立てることができた。卒業生の大学訪問や「教師教育研究協議会」でのOB、OG、在学生との交流を通してさらに確認した。 大学のブランディングプロジェクトの進行とともに刷り込み効果の大きい媒体を中心とした広報活動を展開し、学科のHPを通して受験生や社会に発信することができた。 ① オープンキャンパス、保護者懇談会、進学説明会などにおいて充実した各種媒体を以て発信することができた。	指標に基づく中期目標の達成状況 学内：調査を3/3実施。検証と対策を2/2実施。達成を1/1実施。 学外：調査を3/3実施。検証と対策を3/4実施。達成を1/1実施。 【指標「計画表」D1-2】 【指標「教員採用の実績表」】 【指標「保育士採用の実績」】 【指標「こ発体育大会概要」】 【指標「学部学科あてサイトマップ(こ発)」】
2020年度	年次計画内容 [2-1] ① 新型コロナウイルスによる体制の変容に鑑み、オンライン上の情報発信に力を入れ、こども発達学科の理念・目的を、社会に向けて認知できるように引き続き構成員全員が心掛けて発信する。 ② ブランディングプロジェクトと歩調を合わせながら大学や学科のホームページを再点検し、改善を図って知名度・イメージの向上を図る。 ③ オンライン上のオープンキャンパスや保護者懇談会の説明会において効率よく認知度を高めることができるよう工夫する。		

(8) 心理学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 臨床心理学科の理念・目標を維持するため適切な教育・研究活動が行われているかについて、学科教育の成果としての進路決定状況や資格取得状況を参考に臨床心理学科会議(2018.4より心理学部教授会)で検証する。		① 進路決定状況 ② 精神保健福祉士合格率 ③ 大学院臨床心理学研究科進学率 ④ 臨床心理士試験合格率	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 前年度に引き続き、心理学部設立の理念・目的と本学の理念等との対応について検討する	FD研修会を夏と春に実施し、さらに教授会後の時間等を利用して数度にわたる教員集会を開催して、学部の将来や教育方法等に関する議論を行った。	【指標「教員研修会開催要項」】
2020年度	年次計画内容	[1-1] 心理学部設立の理念・目的と本学の建学精神や理念等との対応について、教員集会等において引き続き検討する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 臨床心理学科の目的について、入学式での学科長挨拶と新生ガイダンスにおいて周知し、また学科のホームページや、学科の刊行物においても掲載する。また、2014年度より学科独自で開催している、高校生向けの市民講座においてもこの目的を周知し、学外の人びとにも広く浸透するような活動を行っていく。		学生生活アンケート	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] オープンキャンパス、進学説明会、高校訪問、入学時オリエンテーション等において、随時、心理学部の理念・目的等にかかわる情報を提示し、社会に公表して認知度を向上させる。学部HPも活用して学部教育等の関連情報を提供する。	オープンキャンパス、進学説明会、高校訪問、入学時オリエンテーション等において、心理学部の理念・目的等にかかわる情報を提示した。学部HPも活用して海外実習の状況、学部教育の様子等の関連情報を随時提供した。またコロナウイルスの感染拡大時には、子どものストレスとその対応に関する解説文書を学部HPに掲載した。	心理学部を受験する生徒は増加しており、HPも含めた広報等により社会への認知度は高まっていると思われる。 【指標：子どものストレスとその対応に関する解説文書】
	[2-2] 本学部教員を対象としたFD研修会により、学部理念・目的に関する議論を高める。学生にもキャリア形成に関わる講義等において、学科目的等を周知する。	本学部教員によるFD研修会を夏と春に実施し、さらに教授会後の時間等を利用して数度にわたる教員集会を開催して、学部の教育に関する議論を深めた。学生に対して卒業生等による講演を複数回行い、キャリア形成を支援した。受講した学生からは、大変好評であった。	学部卒業生の進路に関して資格取得WGを中心とした検討を重ね、公務員・保育士講座を教員有志により開催した。【指標：FD研修会、公務員・保育士講座案内チラシ】
2020年度	年次計画内容	[2-1] オープンキャンパス、進学説明会、高校訪問、等において、随時、心理学部の理念・目的等にかかわる情報を提示し、学部HPも活用して社会に公表して認知度を向上させる。	
	[2-2] 本学部教員を対象とした教員集会等により、学部理念・目的に関する議論を高める。学生に対してはキャリア形成等の講義において、学部の理念や学科目的等を周知する。		

(9) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] ①現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。 ②①の関連性の評価にもとづき学部の理念・目的を定期的に検証する。		①社会活動への参加状況(豊かな人間性の涵養及び人権感覚を基盤とした法的思考能力) ②法学検定試験の合格状況(法の役割と内容の教授研究) ③国際交流状況(国際感覚) ④就職状況(人材の育成)	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] ①法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「人権感覚」にかかわり、北海道警察学生ボランティア(防犯、少年警察、サイバー)への参加、本学の聴覚障がい者のサポートへの参加を奨励する。また、教育目標にある「社会で生じる様々な問題や紛争を法的に処理する実務的な専門能力を養成する」という点にかかわり、海浜清掃への参加、模擬裁判への参加を奨励する。 ②目的の「法の役割と内容の教授研究」、教育目標の「法の理念や解釈に関する知識を習得させる」という点にかかわり、法学検定試験の受験を奨励し、学力の向上に向けた努力を誘導する。 ③法学部の目的である「人権感覚と国	[1-1] ①北海道警察の非行少年の立ち直りをサポートするjumpersの学外ガイダンスに学生が参加するよう、ゼミナールを通じて促した。また聴覚障がい学生のノートテイクのボランティアについても、ガイダンスや授業を利用して法学部に誘導を図った。 ②法学検定試験対策の法学部の専門科目「法学スキル基礎」(2年生履修科目)を、後期前半集中で開講した。専門科目「法学スキル応用」(2年生履修科目)についても、同様の形態で開講し、試験対策を充実させた。今年度は学長裁量経費を受けてLECリーガルマイルドによる法学検定試験スタンダード直前演習講座を開講し、次年度は学部予算で同講座を開講することとした。 ③「海外フィールドワークA」を開講し、研修旅行としてアメリカに学生を引率した。キャリアスキル基礎B、キャリアスキル応用Bにおいて、元高校の英語の教員2名に非常勤講師を委嘱し、英語の基礎学力を身に付けさせ	[1-1] ①北海道警察の大学生ボランティアjumpersに、法学部生が登録している。本学における聴覚障がい学生のためのパソコンテイク・ノートテイク、通学介助に、2月末までに9名の学生が参加し、パソコンテイク・ノートテイクを266時間35分、介助を24回行った。これらのボランティア活動への学生の参加を促すために、NPOの関係者などを講師とする法学部の専門科目「法政特殊講義A(地域活動実践論)」を前期に開講し、この授業を履修した学生が専門科目の「地域インターンシップA」を履修することで、連動した効果が期待できる。 ②法学検定ベーシックの受験者は191名、合格者は103名で合格率は54.5%であった。法学検定スタンダードの受験者は21名、合格者は11名で合格率は52.3%であった。法学検定ベーシック

1. 理念・目的

	<p>際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「国際感覚」にかかわり、法学部の授業科目である「海外フィールドワーク」など国際交流事業に学生の参加を奨励する。</p> <p>④目的の「個性が尊重される社会の実現に貢献しうる人材を育成すること」にかかわり、法学部の内定率(留年生を含む)95%に近づけるよう努める。</p> <p>⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に判断して、学部目的(理念)及び教育目標が妥当であるのか点検する。</p>	<p>るための英語教育を行った。外国書講読 A、外国書講読 B では、キャリアスキル基礎 B、キャリアスキル応用 B に連続させる形で、英語の学力向上を図った。来年度も同じ体制を続けることにしている。このような英語教育を通じて、学生の英語能力を向上させるとともに、海外に関心をもつよう努めた。</p> <p>④就職状況を改善するために前年度に引き続き、担任を介した就職指導を推進した。</p> <p>⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に検討し、また法学部が育てたい学生像を描きつつ、新たな教育目標とその下でのディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーおよび 2021 年度からの新カリキュラムを策定した。</p>	<p>の合格者数が 100 名を超え、合格率も上昇した。全国的に合格者数を多く出す大学が現れたため、合格者数(団体受験して合格したのは 99 名)において全国第 5 位にとどまった。法学検定スタンダードは、受験者数において団体受験表彰対象である 20 名超えを果たしたが、合格率が低まった。</p> <p>③国際交流を促す専門科目「海外フィールドワーク A」ではアメリカへの研修旅行を実施した。参加した学生 6 名がインタビュー調査を行い、国際感覚をもつような研修プログラムにした。</p> <p>④法学部の 2 月末現在の内定率は 95.5%であり、目標値の 90%以上に到達した。</p>
2020 年度	<p>年次計画内容</p> <p>[1-1]</p> <p>①法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「人権感覚」にかかわり、北海道警察学生ボランティア(防犯、少年警察、サイバー)への参加、本学の聴覚障がい者のサポートへの参加を奨励する。また、教育目標にある「社会で生じる様々な問題や紛争を法的に処理する実務的な専門能力を養成する」という点にかかわり、海浜清掃への参加、模擬裁判への参加を奨励する。</p> <p>②目的の「法の役割と内容の教授研究」、教育目標の「法の理念や解釈に関する知識を習得させる」という点にかかわり、法学検定試験の受験を奨励し、学力の向上に向けた努力を誘導する。</p> <p>③法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「国際感覚」にかかわり、国際交流事業への学生の関心を促す。</p> <p>④目的の「個性が尊重される社会の実現に貢献しうる人材を育成すること」にかかわり、法学部の内定率(留年生を含む)95%に近づけるよう努める。</p> <p>⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に判断して、学部目的(理念)及び教育目標が妥当であるのか点検する。</p>		

中期計画【計画 2】(目標 2 に対応する計画)			達成度評価指標【指標 2】
<p>[2-1]</p> <p>①履修要項等の刊行物、ホームページ、高校へのニュースレター、掲示物、新年度の在学生向けガイダンス等の手段によって周知をはかるとともに、その効果を検証する。</p>			<p>①刷物、HP などへの掲示実績</p>
2019 年度	<p>年次計画内容</p> <p>[2-1]</p> <p>①学部の目的(理念)及び教育目標を履修要項に掲載する。ホームページで紹介する。高校へのニュースレターでその趣旨などについて広報する。</p> <p>②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証する。</p>	<p>計画実施状況</p> <p>[2-1]</p> <p>①学部の目的(理念)及び教育目標を履修要項に掲載した。法学部の独自ホームページで紹介している。オープンキャンパスにおいて、また法学部生対象の 4 月上旬のガイダンスにおいて説明した。高校へのニュースレターでも広報した。</p> <p>②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証した。</p>	<p>指標に基づく中期目標の達成状況</p> <p>①学部の独自ホームページのほか、大学ホームページの学部コーナーに、法学部の教育目標およびそれに則した諸活動を掲載している。ニュースレターは 2019 年 8 月と 9 月に発行し、法学部の教育目標及び教育戦略を明示して高校に配布した。</p> <p>②年次計画は達成されている。その効果については、法学部生が資格取得で成果をあげている点、また法学部の受験者数が確保できている点などから見て、一定の効果があると判断できる。</p>
2020 年度	<p>年次計画内容</p> <p>[2-1]</p> <p>①学部の目的(理念)及び教育目標を履修要項に掲載する。ホームページで紹介する。高校へのニュースレターでその趣旨などについて広報する。</p> <p>②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証する。</p>		

(10) 大学院法学研究科

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)			達成度評価指標【指標 1】
<p>[1-1] 法学研究科は、本学の理念・目的、本研究科を取り巻く状況、本研究科の教育・研究活動の成果との関連において、本研究科の目的・教育目標の適切性について不断に評価を行う。</p>			<p>①入学志願者数</p> <p>②入学生の専門分野別割合</p> <p>③修士学位授与率</p> <p>④修了生進路状況</p> <p>⑤研究科の理念・目的に関する検証・評価作業を行なった回数</p>
2019 年度	<p>年次計画内容</p> <p>[1-1] 運営会議などを通じて、前期・後期に少なくとも 1 回、年 2 回は検証・評価作業を行う。</p>	<p>計画実施状況</p> <p>3 ポリシーの見直し作業ならびに教育目標の変更を行なった。</p>	<p>指標に基づく中期目標の達成状況</p> <p>①入学志願者数: 17 人(第 1 期 5 人、第 2 期 12 人)、前年比 3 名増</p> <p>②入学生の専門分野別割合: 税法 16 名、政治 1 名</p> <p>③修士学位授与率: 90% (10/11)</p> <p>④修了生進路状況: 全員が税理士志望であり、税理士事務所勤務中であるか勤務を予定している。</p> <p>⑤研究科の理念・目的に関する検証・評価作業を行なった回数: 後期 3 回</p>

2020年度	年次計画内容
	[1-1] 運営会議などを通じて、前期・後期に少なくとも1回は、検証・評価作業を行う。

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンス等を通じた広報活動を行い、必要であれば新たな周知方法を検討する。		①ホームページの更新数 ②刊行物、ホームページ、ガイダンス等を通じた広報活動の有無
2019年度	年次計画内容 次の事業を行う。 ①『大学院案内』を発行する。 ②学内及び学外に向けⅠ期及びⅡ期入試についての説明会を通じて周知を図る。 ③年度初めのガイダンスで周知を図る。	計画実施状況 ①『大学院案内』を発行した。 ②学内及び学外に向けⅠ期及びⅡ期入試についての説明会を通じて周知を図った。 ③年度初めのガイダンスで周知を図った。 ④定常業務外に、新規プロジェクトとして対外的な認知向上と地域貢献に寄与するセミナーを2回開催する予定だったが、コロナウイルス感染の影響で、2回目の開催は中止となった。
		①ホームページの更新数: 1回 ②刊行物、ホームページ、ガイダンス等を通じた広報活動の有無(2019年度新規): 達成
2020年度	年次計画内容 次の事業を行う。 ①『大学院案内』を発行する。 ②学内及び学外に向け、Ⅱ期入試についての説明会を通じて周知を図る(Ⅰ期入試はコロナウイルスの影響で中止)。 ③年度初めのガイダンスで周知を図る。	指標に基づく中期目標の達成状況

(1.1) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 臨床心理士に求められる資質を涵養する臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを検証し維持する。		①カリキュラム、シラバス ②臨床心理士試験合格者数 ③修了生就職先
2019年度	年次計画内容 [1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを維持し臨床心理士資格に資する人材養成を行ってきているので、本年度の状況を把握し必要な対応を計画ないし遂行する。一方で国家資格公認心理師法施行に伴い、臨床心理士資格がどのような位置づけになっっていくか情報収集を行う。	計画実施状況 計画に沿って遂行した。 ②は5名であった。前年度修了生の合格率は全国平均程であった。臨床心理士資格者数は累積で141名となり、研究科の目的を着実に遂行している。
		①達成(添付資料) ②達成5名(累積141名、修了生全員を母数とする比率86.5%) ③達成
2020年度	年次計画内容 [1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを維持し臨床心理士資格に資する人材養成を行ってきているので、本年度の状況を把握し必要な対応を計画ないし遂行する。一方で国家資格公認心理師法施行に伴い、臨床心理士資格がどのような位置づけになっっていくか情報収集を行う。	指標に基づく中期目標の達成状況

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[1-1] 理念・目的を刊行物、ホームページ、ガイダンスで周知し、公表する。		① 修士論文抄録集 ② WEB上修士論文タイトル ③ 心理臨床センター紀要 ④ WEB版心理臨床センター紀要(抜粋) ⑤ 学院ホームページ
2019年度	年次計画内容 [1-1] 研究科の理念・目的などについて、学内・学外における大学院説明会において説明を行い、周知を図る。尚、2019年度については戦略的予算により啓発パンフレットを作成することが決まった。研究科の理念・目的を広げるツールとして、作成・配布を計画的に行う。広報室会議には昨年度から出席しており、当該年度も出席しより全学的な広報活動を行う。	計画実施状況 計画に沿って遂行した。 一期入試、二期入試に関わる学内・学外説明会において説明・周知を図った。(指標②④⑤は年度をまたぎ作業)
		① 達成(資料添付) ② 達成(研究科委員会議事録) ③ 達成(心理臨床センター運営会議) ④ 達成 ⑤ 達成
2020年度	年次計画内容 [1-1] 研究科の理念・目的などについて、学内・学外における大学院説明会において説明を行い、周知を図る。尚、2020年度についても引き続き戦略的予算により啓発パンフレットを作成することになった。研究科の理念・目的を広げるツールとして、作成・配布を計画的に行う。広報室会議メンバーとして、昨年度同様、全学的な広報活動を行う。	指標に基づく中期目標の達成状況

1. 理念・目的

(1 2) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生)	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 大学院再編議論、新キャンパス移転の計画、入学者数を踏まえながら、地域社会マネジメント研究科の理念・目的の検討をおこなう。 [1-2] 地域社会マネジメント研究科の現在の理念・目的に沿って教育・研究活動を検証する。	全学的な3ポリシー見直しの過程で本研究科の理念・目的の再確認を実施した。	①修了者3名(社会人2名、定年退職者1名)であり、勤務先の変更はない。 ②社会活動に参加した院生はいなかったが、一名の院生が勤務先で教育活動を行っている。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 大学院再編議論、新キャンパス移転の計画、入学者数を踏まえながら、地域社会マネジメント研究科の理念・目的の検討をおこなう。 [1-2] 地域社会マネジメント研究科の現在の理念・目的に沿って教育・研究活動を検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] パンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		①理念・目的の認知度調査結果	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 地域社会マネジメント研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンス、講演を通じて周知させる。 [2-2] 地域社会マネジメント研究科の認知度を向上させる新たな施策の検討を開始する。	パンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じ、周知させた。認知度を効率的に向上させるためのターゲット広告を計画し、来年度からの実施に向けた前準備を行なった。	認知度調査は行わなかったがガイダンスなどを通じ周知している。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 地域社会マネジメント研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンス、講演を通じて周知させる。 [2-2] 地域社会マネジメント研究科の認知度を向上させる新たな施策を開始する。		